

博士学位論文審査要旨

2023年1月11日

論文題目： 明治期来日アメリカ女性宣教師によるトランスナショナルなキリスト教伝道
ーアメリカン・ボード宣教師イライザ・タルカット(Eliza Talcott, 1836-1911)を事例としてー

学位申請者： 石村 真紀

審査委員：

主査： 社会学研究科 教授 吉田 亮

副査： 社会学研究科 准教授 越水 雄二

副査： 上智大学 外国語学部 教授 石井 紀子

要 旨：

本研究が対象とする、19世紀後半から20世紀初頭期におけるアメリカ・プロテスタント史に起こったミッショナリー・ムーブメントは、20世紀末以来アメリカ史の分野で盛んになったトランスナショナル史研究において基幹テーマのひとつである。当該運動の中核をなす海外伝道において重要な役割を担ったのは独身女性宣教師であり、その学校教育、矯風、救済、医療、看護事業に関する研究は多い。ただし、男性より女性が劣位におかれているとされる「直接伝道」に焦点化し、しかもトランスナショナル史の視点からの研究成果は極めて限定的である。

本研究は、米国最古の海外伝道団体アメリカン・ボードが日本に派遣した初代女性宣教師イライザ・タルカット(Eliza Talcott, 1836-1911)の1873(明治6)から1911(明治44)年までの活動の全体像を解明して論じるものである。同時期の日本は、海外伝道において最有力伝道地のひとつであった。著者は、当該時期のミッショナリー・ムーブメントに関する先行研究の批判的総括(1章)と日米の時代背景(2章)を述べた上で、タルカットによる初回の日本伝道(3章：神戸、4章：岡山、5章：京都・広島)、休暇帰国中の米国及びハワイ伝道(6章)、再度の日本伝道(7章)を時系列に追跡しながら、女性宣教師が時代や地域毎に変化するニーズに最適に対応できる日本人女性伝道者(バイブル・ウーマン)を育成し、協働による「直接伝道」によって、女性の評価を上げるだけでなく、日本及びハワイに伝道地を相関させていった過程を明らかにして考察を進めている。

本研究が提示する新知見は以下の三点に総括できる。第一に、バイブル・ウーマンは、海外伝道地において男性宣教師より制度上不利な立場におかれていた女性宣教師が、有能なバイブル・ウーマンを育成し、「助っ人」として協働することで、「直接伝道」において劣勢を挽回し、「女性のための伝道領域」を拡大するための有力なエージェントであったこと。第二に、バイブル・ウーマン職は女性宣教師が米国から伝道地に移植したものであったが、伝道地の抱える変化するニーズに対応し、その意味合いは恒常的に変質するだけでなく、米国の当該職観にも逆影響を及ぼすものであったこと。第三に、日本からハワイに持ち込まれ、日本人移民伝道において独自に進化したバイブル・ウーマン像が、彼女らと協働した女性宣教師によって日本での「直接伝道」に逆輸入され、「助っ人」から自立的バイブル・ウーマン育成への変更に導いたこと。

総じて、これまでアメリカン・ボードによる日本伝道史においてバイブル・ウーマンの研究は等閑視されてきたことを踏まえると、そのネットワークの形成や理想像の進化とそのトランスナ

ショナル化について論究した本研究の学問的功績は大きい。本研究は、地域・時期・教派他において限定的な考察であるという不十分さはあるが、上記の三点において特にミッシヨナリー・ムーブメント史研究の裾野を広げるところがあった。これはまた、直接的には異文化理解におけるエージェントの役割解明への貢献によって教育文化史研究に、間接的には日本の女子教育史や医学・看護教育史、日米間の文化交流史など関連分野に対しても示唆を与えるものである。よって、本論文は、博士（教育文化学）（同志社大学）の学位論文として十分な価値を有するものと認められる。

総合試験結果の要旨

2023年1月11日

論文題目： 明治期来日アメリカ女性宣教師によるトランスナショナルなキリスト教伝道
ーアメリカン・ボード宣教師イライザ・タルカット(Eliza Talcott, 1836-1911)を事例としてー

学位申請者： 石村 真紀

審査委員：

主査： 社会学研究科 教授 吉田 亮

副査： 社会学研究科 准教授 越水 雄二

副査： 上智大学 外国語学部 教授 石井 紀子

要 旨：

2023年1月11日の17時10分から18時55分にかけて、申請者による公開学術講演会が開催された。65分にわたり申請論文の要旨を報告したあと、主査・副査および聴衆者との間で質疑応答が行われた。どの質問に対しても、研究成果を踏まえて的確にこたえ、論文の背景となる幅広い知見を披露した。公開学術講演会が終了した後、19時20分から20時50分まで、主査と副査2名による専門的な質疑応答が行われた。いずれの質問にも真摯に返答し、研究者としての深い資質が確認された。

申請者はすでに2017年1月25日には教育文化学全般に関する専門試験からなる博士候補生第一次試験に合格し、2017年9月13日には博士論文に関する方法的資質と論文の概要を英語で回答する博士候補生第二次試験に合格し、博士候補生の資格を得ており、博士学位取得者に相応しい能力を有していることが確認されている。よって、総合試験の結果は合格であると認める。

博士學位論文要旨

Abstract of Doctoral Dissertation

論文題目： 明治期来日アメリカ女性宣教師によるトランスナショナルなキリスト
Title of Doctoral Dissertation 教伝道
ーアメリカン・ボード宣教師イライザ・タルカット (Eliza
Talcott, 1836-1911) を事例としてー

氏名： 石村 真紀
Name

要旨：
Abstract

ミッショナリー・ムーブメント (伝道運動) は、19 世紀末から 20 世紀初頭のアメリカプロテスタントキリスト教 (以下、米プロテスタント) 史を特徴づける大きな要素である。このムーブメントは伝道を第一義とすることはいうまでもないが、加えて、当時のアメリカ社会が抱えていた社会問題の解決に、キリスト教会が一定の役割を果たすことによって、個人の魂の救済から社会全体の救済をめざすという米プロテスタント教界の方向性を具体化したものでもあった。

19 世紀前半の米プロテスタント教界は、第 2 次信仰復興の流れの中で国内フロンティアへの伝道活動が行われ、同時に、海外伝道の組織が誕生した時であった。本論文で取りあげるアメリカン・ボード (American Board of Commissioners for Foreign Missions, 以下 ABCFM) も、1810 年に組織された、アメリカ最初の超教派の海外伝道団体である。ABCFM の伝道地はヨーロッパ、アジア、アフリカ、オセアニア諸国に及び、19 世紀後半には明治維新によって鎖国を解いた日本もその対象となった。

19 世紀後半から世紀転換期にかけてのミッショナリー・ムーブメントには、先立つ 19 世紀前半の福音伝道中心の活動と異なる点として、アメリカの国内情勢を反映した社会改良の要素が含まれている点が特徴的である。この時期は、アメリカ史上の大きな変革のときであった。1865 年、南北戦争が終結し、アメリカ社会には工業化・都市化の波が押し寄せた。アメリカは世界第一の工業国となったが、それに伴い、都市への人口集中、全国的な鉄道網の発達、大企業の出現、新移民の大量流入など、これまでにない社会の大きな変化が生じることとなった。この変化は、国家としてのアメリカの発展に対する期待を抱かせる一方で、旧来の生活様式や価値観といった個人の生き方に関わる部分に大きな影響を与えた。また、社会の形態が変化した結果、貧困、格差、差別といった社会問題がさまざまな形で噴出し、その解決が図られねばならなかった。そこに注力したのが米プロテスタント教界であり、ミッショナリー・ムーブメントもそうした流れに沿って変容していった。それをふまえて、本論文では 19 世紀後半期のミッショナリー・ムーブメントの一例として海外伝道に着目し、その時期の中心課題である社会改良が伝道地において実際に如何にして行われたか、伝道地の現実との関連を考察することを基本とする。伝道地で行われた社会改良が、本国アメリカのアングロサクソン優越主義的社会改良の持ち込みではなく、伝道地ごとの視点からの改良を意図していたことを明らかにする。

これまでの先行研究においては、ミッショナリー・ムーブメントにおける社会改良は、アングロサクソン優越主義やアメリカの膨張主義、帝国主義が産んだものという説明がなされてきた。このような解釈の前提となっている、プロテスタント史における海外伝道に対する見方は、アメリカ社会の影響が伝道地に及ぶという一方向的なものから、最近では越境史的視点

(Transnational History) へと変わった。また、19世紀以降の米プロテスタントと社会改良という視点の先行研究では、特に女性の社会改良への参画という点について1980年代以降のフェミニズムにかかる議論の活発化に呼応して、フェミニズムや女性の権利獲得の観点からの研究が中心となっている。

ABCFMの日本伝道および宣教師に関する研究については、書簡、報告書などの一次資料に基づいた研究が進んでいる。研究の焦点は、伝道の拠点となった神戸、京都、大阪の3ステーションを中心に、教育、社会福祉、医療などの個別テーマ、あるいは宣教師個人の事績などであるが、主として日本社会の諸問題との関係性の中での考察にとどまるものが多い。

本論文は、対象時期を19世紀後半から世紀転換期とし、ABCFM日本派遣宣教師イライザ・タルカット(Eliza Talcott, 1836-1911)の伝道活動を事例として取り上げた。タルカットは、ABCFMが日本に派遣した最初の女性宣教師で1873年に神戸に着任、同僚女性宣教師とともに現在の神戸女学院となる女子寄宿学校を創立した。その後、岡山、京都、ハワイで伝道に携わり、京都看病婦学校、神戸女子神学校でも教鞭をとった。これまで、タルカットの活動については主として神戸と京都での教育活動に関する研究がなされてきた。一方、タルカットは教育のみならず各地への伝道も来日初期から活発に行っていた。むしろ、教育にたずさわるよりも伝道、特に女性対象の伝道活動や、のちに社会福祉事業に発展する孤児院設立の支援、病院訪問といった社会的弱者の救済となる活動に積極的に関わっていた。それらの活動の展開として、バイブル・ウーマン(Bible woman、女性伝道者)の養成にも力を注いだ。タルカットの日本での活動は40年にわたり、それはほぼ明治時代の期間に相当する。その間に日本社会の状況は大きく変化し、それは必然的にタルカットの活動スタイルに影響を与えた。宣教師としてのタルカットは、ABCFMの伝道方針に従うが、実際の伝道活動の場においては変化する状況に最適の伝道スタイルを求めたのである。またタルカットは、伝道対象を主として女性として、教育、看護、地域伝道、海外移民伝道とさまざまな伝道場面で活動してきた。その過程で、例えば病院での傷病兵訪問のように、伝道対象も男性へと広がっていった。当時のプロテスタント伝道活動において、女性宣教師に期待されていた役割の主要な部分が「女性による女性のための働き」であったことに鑑みると、タルカットの活動はそれ以上の展開をみせていた。

本論文ではまず第1部において19世紀後半の日米の社会状況とプロテスタントキリスト教について述べる。第1章では19世紀後半の日米の社会状況全般を概観し、それぞれの社会とプロテスタントキリスト教がどのような関係にあったかを探る。アメリカでは南北戦争、日本では明治維新が社会全体の大きな変革点となっており、この前後での社会状況の変化を明確にする。そしてアメリカでは米プロテスタント教界の変化、日本では明治維新後に始まったプロテスタントキリスト教の伝道と社会との関係を捉える。第2章ではABCFMの初期の日本伝道についてみる。日本伝道初期の特徴として教育、女性宣教師派遣と日本女性への伝道、医療と社会改良の萌芽的活動を指摘、その後の展開について整理する。これらをふまえ、第2部ではタルカットの女性宣教師としての活動を時系列に沿って検討する。まず第3章では、タルカットが最初に活動を開始した神戸での7年間について考察する。この時期の主たる活動は、のちの神戸女学院となる「女学校」の創立とされているが、それだけではなく、すでに地域女性への伝道活動を行い、監獄訪問のように社会改良に繋がる活動、同僚女性宣教師に協力して日本人女性のバイブル・ウーマン養成も始めていたことを確認した。第4章では、岡山ステーションに転任したタルカットが地域女性への伝道によって、神戸とは異なったスタイルの伝道活動を成功させていたことを示した。その背景には岡山の地域事情、自由民権運動との関わりがあった。また医療伝道と孤児院支援によって、さらに踏み込んだ社会改良活動を進めていたことも明らかにした。第5章では、京都ステーションに転任したタルカットが京都看病婦学校でキリスト教教育にあたり、日清戦争時

の広島では陸軍病院で活動するという、同時期の女性宣教師には例のない伝道活動について考察した。京都看病婦学校で教鞭を執る傍ら、タルカットは同志社病院でも職員や患者に対する感話を行い、教え子を伴って近郊へ伝道に出かけた。広島では、京都看病婦学校の関係者との協働に加えて、神戸の女学校卒業生の甲賀ふじの協力を得て当地での活動の幅を広げることができた。看護と医療の現場での伝道という、神戸とも岡山とも異なる伝道環境でのタルカットの活動について考察し、そのなかで特に男性を直接の伝道対象とした点も特徴として指摘した。第6章では、日本派遣宣教師としては異色の経験となるハワイでの日本人移民伝道と、それに先立つアメリカでの長期休暇中の活動について考察した。休暇中、タルカットは日本伝道の現状について各地で講演し、ABCFM 関連団体で女性宣教師を支援するウーマンズ・ボードの機関誌に投稿して、アメリカの女性クリスチャンに支援を訴えた。特に日本のバイブル・ウーマンの活躍について強調し、自身が日本での活動の中で常に意識してきた日本人バイブル・ウーマンの理想型を示した。これはウーマンズ・ボードの支援方針とも合致し、かつタルカットの伝道経験から得た成果の発揮であることを明確にした。また、ハワイでの日本人移民への伝道活動についてはこれまであまり取り上げられることがなかったが、現地の伝道組織ハワイアン・ボードの記録等を用いてタルカットの活動内容や役割を確認した。さらにタルカットはハワイにおいても神戸や京都での教え子と協働、バイブル・ウーマンとして活躍する彼女らと日本人移民の女性への伝道に注力したことを明らかにした。第7章では、再び神戸を拠点としたタルカットの日本伝道最後の時期の活動について、神戸女子神学校での教育活動、日露戦争との関わり、各地方への伝道を中心に検討した。タルカットの宣教師としてのキャリアの総まとめとなるこの時期は、明治も末期となり日本社会の変容も著しい時期であった。そのようなときに、タルカットは自身の経験を生かした活動を続けながら後輩の女性宣教師や日本女性信徒にその成果を還元し、次世代へ繋ぐ成果を残したことを示した。

考察のために主として使用した史料は、タルカットが ABCFM 本部に送った書簡および ABCFM 日本伝道関連文書、ABCFM 及び関連団体機関誌である。また、キリスト教関係紙や当時発行されていた日米の地元紙など新聞類も参考にした。